

さかえ

十二月号

栄える村は納税から



報弘館公民村栄

資料提供：花開孚夫氏（つくば市金田）
編集：木村 滋

う。時代が少し古く徳川時代の末期に遡ります。二宮尊徳翁が相州小田原の藩主大久保候の命により、その分家野州櫻町領（今の栃木県芳賀郡）物井 横田（今の物部村の内）及東沼（今の山前村の内）三部落の復興を完成した事実であります。

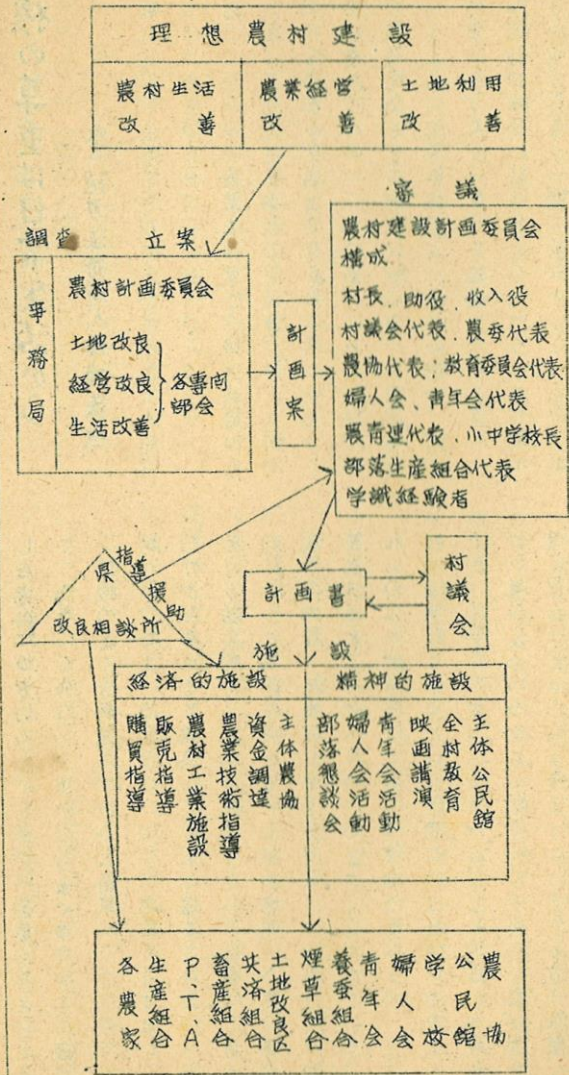
翁は大久保候の命を受け、櫻町に赴いて数十日かかつて農家の一戸一戸につき食糧の状況、勤惰の状況、耕地の地力を綿密に調べ上げ、又過去及現在の人情風俗等も研究して一旦小田原に帰り其の結果を藩主に復命した。翁の意見は「土地瘠薄にして人民の無頼怠惰も極つて居る。然し之を振起するに仁術を以てし、農民旧染の汚俗を革め、専ら力を農事に盡す時は再興の道無きに非ず」というのであつて、しかもこの復興に當つては助成金を出しては駄目だ。「荒蕪を南くに荒蕪の力を以てす」と言う方法で行くが良いといつて居る。この一言口洵に味うべき言葉であつて今日と雖も度りないと思つたのであります。翁は藩公の依頼により再び櫻町に到り、この調査を基礎として再生産力増強の年次計画を定め、又一面租税を一定期間限度を定のに政を施すことを要求し、農民にも各分度を定めてその限

界内に生活を固定せしめ、極力再生産の拡大を計り之を順次蓄積して土地利用の改善等基本的生産力の整備を行い、一方農民自らが助成金をさける程の徹底した生産意欲の昂揚を図つて計画年度内にその目標に到達せしむる方法をとり、翁もまたこの地に移住して実践垂範朝に星を頂き夕に月を踏んで自ら障頭に立ち計画年度内に当初の目的を貫徹したのであります。

明治時代に入つても種々の振興計画が樹立され、殊に前田正名、石川理紀之助等によつて提唱された町村是、或は適産調町村是等の仕事は相当広範囲に亘つて行われたようでありました。

今回新時代の要求によつて取り上げられた新農村計画も即ち農村振興施策の一つであり、現在農業経営の上は何等の目標を持たない農村に対し一つの指標を与えんとするものであることは勿論であります。而して本村に於てはこれからこの計画を樹立するのであつて漸く組織の立案が出来たばかりで如何計画が生れるか訂予言出来ないが、立案について一応考えられる点は、(一)現況調査を科学的に行ふこと、(二)村民の自主性を基礎としたものであること、(三)資金の生み出し方法、(四)

建設計画作成実施組織系統



(四) 必ず実行出来且つ特徴あるものであること等であり、この計画の立案及実行促進は左表の機関がこれに当るのであるが、これは「村民のために作られた計画でなく、必ず「村民とともに作られた計画」でなければならぬと思っております。近く各部落に於て

座談会等も行い予定であり、又委員の任命等も致す筈であり、これが出れば直に基礎調査等にも着手することになつて居りますから、村民各位に於て、予の十分御研究下さつて、各方面より御協力を賜るよう切に要請致す次第であります。

人權の尊重は日常生活から

水戸地方方法務局人權擁護課

私達の毎日毎日の生活をふりかえつてみる。人間性を無視している多くのできごとが目につく。

家庭生活についてみて、家族制度は法律上否定せられたといえ、まだまだ家本位の考え方が強く、何かというとい人の自由や幸福より家の体面とでもいふのが第一に考えられる。これは実際にあつた話だが、ある村の教育委員やその他の公職にまつき財産も相当あるというように、所産家柄のよいうちの娘が、同じ村の青年と愛し合うようになって結婚したいと望んだか両親は家柄がつり合わないといつてどうしても賛成してくれないので青年と一緒に家出をしたところ、連れ帰されて座敷牢に入れられたとのことである。この二人も結局結婚することができたのだが、これほど極端なこと稀だとしても、結婚や離婚について当人同志の意思より家のことが先づ先に考えられるのは随分多い。例えば農家で嫁を貰うこの嫁を貰うとか嫁に

やるとか言う言葉も大変おかしなものであるが、こうした場合にも努力力という点が一番重く考えられるので、病氣にでもならぬのなら出てゆけがしに扱われ、結婚のような病氣にかかると婚家にいつたのでは絶対といつてよい位直らないため、病氣を直すという点だけから考えると離婚して実家に帰る方がよい。とさ、えい、話を聞く。又同じ家族のうちでも長幼、男女の別によつて名前の呼び方から座る場所、入浴の順番、食事の内容、洗濯物を干す場所等々、いろいろの面で差別するところや人々がいるとよく言われている。これらのことがらに、他にも理由はあるが、すべての人は平等であるという理念とはほど遠いものといえよう。又今年のように不作や凶作だと娘達の人身売買が一層ふえるだろうと心配されているが、家が困れば娘を売ることにも己むを得ないといふ考え方は根強く、又娘達にして家のために役立つならと考えている者も多い。そしてこの人身売買をなくしてゆくことのできない最大の原因として売春制度と、売春制度は必要な社会悪であるとする一般の考え方があつた。さらに又いまして、特殊の名稱を以て呼ばれてきた人々に對す

る差別、刑余者に対する偏見、生活保護を恰も恩恵であるかのように考えていること等々、このような無知や偏見が社会に多くの悲劇の種を蒔いている。

或は又、物好きで無責任な噂のために思いがけない迷惑をうけるようなことも多い。例えば、警察に呼ばれて調べられたということだけで、隣り近所の人々からまるで犯人扱いをされるだけでなく、すぐに勤め先を解雇されたという例や、警察で調べられたことを気に病んで自殺をしようとしたという例さえもあるし、あることないこと取りまぜての噂のために名誉や信用を傷つけられたというように、口誰でも一度位詮駁している者である。

私達は又「理屈はさうでも實際は○○○○○○○○○○と」いうような言葉をよく聞く。合理的な判断よりも義理や人情というようなものが優先し、このために私達の生活を必要以上に不明朗なものにしていることも多い。祭の寄附をことわつたために白い目で見られるようになったとか、みこしに累れ込まれたというような話をしほしほ聞かされるし選挙の際などにしても、昔から世話になつているとか、頼まれたからというよう

理由で投票する場合も多い。

狐などのやうな動物がつかっているもので、それを追出そうとして祈禱をし、病気を悪化させ遂に死に至らしめたという例もある。このようないろいろな場合の人間性の無視や、人権の侵害をとりあへず限りなく、そして多くの場合無知や偏見や慣習に基くものであつて、殆ど無意識的に行われているものであり、救済方法のある場合とない場合とがある。さらに法律的な人権擁護の概念に含まれないものもあるが、人間性の無視乃至軽視ということも争はれず、このようなことが一人一人の人間性の発展をいかに妨げているか、ということも考えられなければならない。

私達の日常生活においても常にすべての人々の人間性が尊重されるということまでゆがなくては、憲法の規定する基本的人権の保障も完全に履行われず、人権侵犯の跡を絶つことができないであらう。自由人権思想の普及徹底と人権という言葉を知つていようと、法律にどのやうに規定されてるかを知らなければいゝ、ということではない。無意識にしろ人間性を否定するようなことがあつては、人権意識を身につけてい

ると口いえない筈である。

人権問題については、県下各地の人権擁護委員及び法務局が相談（無料）に応じています。

栄村町村規模適正化研究会設置

昭和廿八年法律第二五八号を以て町村合併促進法が公布施行せられたので、本村でもこの準備として標記研究会を設置することになり左の会則を制定公布した

栄村町村規模適正化研究会々則

- 第一條 本会曰栄村町村規模適正化研究会と稱し事務所を栄村役場におく
- 第二條 本会曰町村規模の適正合理化のための研究調査を行い、村長の諮問に応ずるとともに村民の意見を募集反映せしめ、町村規模の適正化を推進するものとする。
- 第三條 本会曰村長 助役 庶務主任 議会議員 常設委員 各種団体長並に特に村長において有識者と認めたる者をもつて委員とし村長が委嘱する。

と認めたる者をもつて委員とし村長が委嘱する。

- 委員の任期は二年とし再選を妨げない。
- 第四條 委員の定数は五〇名以内とし、会長に村長副会長に議長を充てるものとする。
- 第五條 本会の招集は会長が行い文書を以て各委員に告知する。

第六條 村長 議会議長 農業委員長 教育委員長 農業協同組合長を西部地区六ヶ村規模適正化研究会の委員とする。

第七條 本会に分科委員会を置くことができる。分科委員会に関する細則は別に定める。

第八條 本会に事務局を置く。事務局の主任は庶務主任とし、書記は村長において史員のうち若干名を兼務せしめ会長が任命する。

第九條 本会の経費は本村一般会計上の支出を受けるものとする。

第十條 本会の会議は村会議規則の例による。

第十一條 その他規則に定めなきものは会長が別に定める。

附 則
この会則は昭和二十八年十月一日から施行する。

昭和廿八年 昭米 政府買入量村内割当

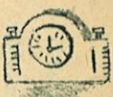
村に対する政府買入米の指示は前号に報導した通りであるが、村口十一月廿八日農業委員会の議を経て各生産人に対しその割当を指示した。今各生産組合の数量を示せば次表の通りである。尚十二月廿一日県の「たすけ合い供米県民運動」実施に当り、本村に対し特別供出期待量四〇石が割当てられた。この処置について村当局より近く詳細な指示があるものと思う。

供米割当集計表

(28.11.28)

組合名	基本割当量	確保割当量	合計
上境	67.54	14.72	82.26
中根	126.59	23.85	150.44
土器屋	57.55	14.88	72.43
松塚	98.58	20.27	118.85
大上坪	113.10	19.36	132.46
大下坪	123.87	21.16	144.83
横町	35.73	8.96	44.89
金田	152.20	27.70	179.90
金田西坪	27.90	8.35	36.25
古采	265.79	40.89	306.68
吉畑	166.15	30.86	197.01
合計	1235.00	231.00	1,466.00

○十二月一日 中学校一学級増加及び補充教員の承認指令を茨城県教育委員会よりうける
 文部省委嘱茨城大学農学部公開講座開講につき本村より塚本博直、酒井作美、沼尻絵、豊島隆雄、豊島幸雄、平島敏一の六名の受講生が入所した。
 ○十二月四日 農業協同組合 P T A 学校 村議会、教育民生委員と共に茨城県西郷村の学校給食施設を視察し、給食につき基礎的研究をなした。
 ○十二月六日 新治郡凡谷村に於て、青年学級研究会が開催され、教育長、青年会長出席し青年学級の運営につき研究した。凡谷村に於ては文部省の委嘱により特に農村青年学級の運営につき、青年会自体の活動による活動運営を推進しつゝ、あり大いに参考になつた。
 ○十二月十日 茨城会館に於て県教育連臨時総会を開催し、地方教育委員会の廃止運動に対する反対運動展開につき決議し政府に対し之れが育成につき陳情することになつた。即ち



教委だより

—(8)—

「教育制度の地方分権と、民主的教育の徹底を期し、教育委員会法の実施に伴ひ経営の固庫負担を全面的に要請する」
 ことになつた。

○十二月十五日 九重村小中学校 P T A 来村し、本村小中学校を視察後、両村実行委員の懇親会を催し P T A の運営振興につき研究討議をした。

○十二月十六日 委員長久松信一氏は、本日前午十一時、委員会事務室に於て会談中脳溢血のため卒倒したが、氏が教委の運営と新制中学校建築について、日夜努力されつゝあつたことを思ひ、一日も早く快癒せられん事を念願して止まない。

○十二月十七日 臨時委員会開催 久松委員長病氣のため岡田副委員長司会の下に兩会、中学校学級編成変更指令に伴う補充教員発令承認の件外二件を附議、何れも原案を可決した。

特に本日田口長壽氏（東京都）が、金田沼尻四郎氏を通じて中学校へ三百倍顕微鏡一台を寄贈されたことに誠に奇特の至りで心から感謝して居る。

○十二月十八日 栗原村に於て西部地方教育委員会連絡協議会が開催され、委員久松茂氏及び教育長が出席して教育施設学校経営を視察し特に青年学級の運営につき平賀主事をかこみ研修した。

○十二月廿四日 土浦市新治地方事務所会議室に於て教育長会議を開催し、人事問題及び廿九年度予算編成方針につき研究した。

青年学級について

十二月七日日本村青年級の定期講座開講式を挙行する。

本年度は特に青年の要望に応えるため、講師と生徒代表との協議を重ね、上境、松塚、大、古米、吉瀬の分館と本館とを使用し六ヶ所に開設すること、し学習の機会を多くするよう工夫したので、講師の先生方の努力に誠に感謝の外ありませんが、生徒諸君の熱意により每晚各教場とも出席率が高く、学習態度が真剣であること口、誠によろこばしい次第であります。

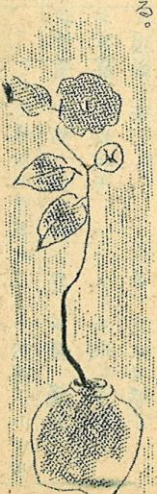
十二月分の授業計画は次表の通りであります。又授業時間口午後七時から同九時までの二時間で、教科及日時の変更口生徒代表と、講師の連絡によつて行うことになつて居ります。

○十二月授業時間割

日	上	本	館	松	塚	大	古	来	吉	瀬
八日	教科	担任	教科	担任	教科	担任	教科	担任	教科	担任
一日	社会	市村	農業	谷中	珠算	鷹巣	農業	久松	社会	杉井
二日	珠算	根本	理科	求植	社会	大久保	珠算	竹中	国語	久松
三日	農業	酒井(作)	珠算	酒井(邦)	国語	鷹巣	杉井	社会	農業	猪俣
四日	理科	栗栖	農業	酒井(邦)	珠算	社会	鈴木	沼尻(三)	珠算	岩瀬(弘)
五日	社会	市村	保健	岡田	農業	大久保	社会	塚本	農業	沼尻(三)
六日	農業	谷中	社会	鈴木	理科	岩瀬	社会	水村	社会	塚本
七日	珠算	根本	国語	酒井(邦)	珠算	岩瀬	国語	根本	理科	社会
八日	農業	谷中	社会	酒井(邦)	珠算	岩瀬	社会	根本	理科	社会
九日	珠算	根本	国語	酒井(邦)	珠算	岩瀬	社会	根本	理科	社会
十日	農業	谷中	社会	酒井(邦)	珠算	岩瀬	社会	根本	理科	社会
十一日	珠算	根本	国語	酒井(邦)	珠算	岩瀬	社会	根本	理科	社会
十二日	農業	谷中	社会	酒井(邦)	珠算	岩瀬	社会	根本	理科	社会
十三日	珠算	根本	国語	酒井(邦)	珠算	岩瀬	社会	根本	理科	社会
十四日	農業	谷中	社会	酒井(邦)	珠算	岩瀬	社会	根本	理科	社会
十五日	珠算	根本	国語	酒井(邦)	珠算	岩瀬	社会	根本	理科	社会
十六日	農業	谷中	社会	酒井(邦)	珠算	岩瀬	社会	根本	理科	社会
十七日	珠算	根本	国語	酒井(邦)	珠算	岩瀬	社会	根本	理科	社会
十八日	農業	谷中	社会	酒井(邦)	珠算	岩瀬	社会	根本	理科	社会
十九日	珠算	根本	国語	酒井(邦)	珠算	岩瀬	社会	根本	理科	社会
二十日	農業	谷中	社会	酒井(邦)	珠算	岩瀬	社会	根本	理科	社会
二十一日	珠算	根本	国語	酒井(邦)	珠算	岩瀬	社会	根本	理科	社会
二十二日	農業	谷中	社会	酒井(邦)	珠算	岩瀬	社会	根本	理科	社会
二十三日	珠算	根本	国語	酒井(邦)	珠算	岩瀬	社会	根本	理科	社会
二十四日	農業	谷中	社会	酒井(邦)	珠算	岩瀬	社会	根本	理科	社会
二十五日	珠算	根本	国語	酒井(邦)	珠算	岩瀬	社会	根本	理科	社会
二十六日	農業	谷中	社会	酒井(邦)	珠算	岩瀬	社会	根本	理科	社会
二十七日	珠算	根本	国語	酒井(邦)	珠算	岩瀬	社会	根本	理科	社会
二十八日	農業	谷中	社会	酒井(邦)	珠算	岩瀬	社会	根本	理科	社会

青年学級振興法に則り、成るべく青年の自主的活動に重点をおいて運営するよう心掛ける。(特に出席の督促、時間の厳守、火気取締、清掃、研究課題の選定などを十分注意研究をすること、)

女子部の授業は特にこの外、土曜日の午後と、日曜日をを利用して道時開講する。



一月より三月までの計画については、運営委員会により十二月の成績を勘案して立案審議の上決定する予定である。



小学校便り

一、西部班小学校各種競技会入賞者

学年	種目	氏名	賞状
一年	猪俣けい子	米山 駿	銀賞 とよしまいさお
一年	広瀬みち子	鈴木敏夫	
二年	増山 弘	塚田よし江	銀賞 岩瀬 秀敏
二年	鷹巣 誠	小池和子	金賞 酒井 初江
三年			銀賞 本橋 良子
四年	中川郁希子	沼尻正滋	銀賞 飯塚 昭子
四年	酒井 和子		
五年	酒井南美子	岩瀬幸江	銀賞 飯塚 聰子
五年	飯塚不沙子	大津咽久	
六年	本橋京子	柴田清美	銀賞 岩瀬 栄
六年	沼尻勝枝	豊島光一	
備考	写生会へは四年以上参加、三年以下は巡回展へ出品		

二、十二月学級PTAの開催

十五日 月例の学級PTAを開催、一時間学級参観後三年の教室で学校長より完全給食問題について説明あり、その後各学級に分かれて担任との懇談をいたしました。尚当日は九重小中PTA役員一八名視察に本校 PTA 実行委員と研究懇談しました。

学年	種目	氏名	賞状
一年	模写飛行機大会	二、三〇於藤沢小学校	珠算競技会
一年	一等賞 中村 伸	二、三〇於藤沢小学校	二、三〇於藤沢小学校
一年	二等賞 久松敏夫		
一年	三等賞 久松敏夫		
二年	鴻巣 猛		
二年	三等賞 久松喜一郎		
二年	酒井豊、小神野健一		
三年	特賞(四九抄)		
三年	縮見喜洋		
三年	一等賞 縮見喜洋		
三年	二等賞 久保田勝男		
三年	上方名尾一		
三年	三等賞 黒田幸夫		
三年	田征天 酒井照夫		
四年	一等 本橋美智子		
四年	二等 酒井ふじ子		
四年	久保田俊夫		
四年	小川 文子		
四年	本橋 つね		
四年	豊島志げ子		
五年	一等 岩瀬 幸江		
五年	多比良端子		
五年	室町多伊子		



中学校便り

○西部班内中学校各村一周駅伝競争

十一月十九日 本校より A B二チームが出場致しました。一チームは十名で三十四料(約九里)をりしで走りました。昨年から教えた方が早く、一同落胆しましたが、今年昨年の雪辱の意気に燃えて主将片岡宏之君を中心に、部員二十四名が、二ヶ月精進して左記の様な好成绩を得ました。

片岡宏之君は、藤沢と馬玄間(四・七料)の悪路を十六分二十秒で走破して一着となり区間賞を頂きました。内蔵の悪くない限り青少年を鍛える運動としては、この様な長距離走は大変よい運動だと思います。青年の意志薄弱 華美怠惰が心配されている時、今後共に奨励してゆきたいと思えます。

次に各村の成績を挙げてみますから、本校の成績を考へ併せて頂きます。

- 一、等 山ノ莊中学校 二時間九分四十八秒
- 二、等 七会中学校 二時間十分五十九秒

- 三、等 藤沢中学校 二時間十三分二十五秒
- 四、等 栄 中学校 二時間十四分四十三秒
- 五、等 斗刺中学校 二時間十六分十七秒
- 六、等 九重中学校 二時間十六分十八秒
- 七、等 山ノ莊中学校B 二時間十八分四秒
- 八、等 七会中学校B 二時間十九分五十七秒
- 九、等 栗原中学校B 二時間二十分二十二秒
- 一〇等 藤沢中学校B 二時間二十三分三十五秒
- 一一等 栄村中学校B 二時間二十五分十一秒
- 一二等 斗刺中学校B 二時間二十七分四十五秒

○西部班読書会及珠算競技会

去る十一月三十日西部班内各校より選手による習字と珠算の競技会が開催されました。左記の成績が得られました。

- 習字 金賞 一年大津千枝 銀賞 一年大久保勲
- 二年藤沢節子 三年佐藤明子
- 珠算 一等 二年塚本智子 二等 一年諸川尚子
- 一年五頭鏡子 三等 二年沼尻美智子 二年五頭章子 三年小川登志子

○部落PTA

—(12)—

十一月中に古来及上境で部落PTAが開催されました。小中学校職員多数参加して父兄と懇談致しました。中学校関係で最も問題になりました事は、進学生の指導に先生の主力が奪われて、進学生本校の教育が行われてはいけなまいかという心配でした。

この問題は、学校参観に一度も出席していない父兄からの声でした。

学校としては、御承知の通り進学生は一二年の復習を放課後三時有位先生が交替で指導して居りまして、決して明日の授業に差支えのある様な疲労を先生が受ける様な事はしていません。進学する生徒に正課で指導する内容を指導して、進学しない生徒が困る様な不平等なことは致して居りません。参加する生徒は進学する生徒であらうと、なほろうと、一二年の学習事項を復習したい希望の者が参加して課外学習をして居ります。決して課外生を進学生に限つたり、又進学生を特別に取扱つたりして居りません。この中学校口かりでなく全国的に教師は教師たる良心に従つて教育して居りますから御心配はありませぬ。

父兄会

今月進学生と、進学せず就取する者、又自家の取業に従事する者とに分けて父兄会を開催致しました。就取する生徒又自家の取業に従事する生徒の父兄会を十日に開催しましたが、一名の父兄も出席しませんでした。学校としては公共取業安定所とも連絡して種々の準備をして居りましたのに、一名の出席もなかつたと残念でなりません。部落PTAでは就取又は自家の取業に従事する生徒の父兄は、進学生のみを力を入れていくという様な批判をしておきながら、進学しない生徒を組織的に指導しようとする相談の機会に出席して我が子の将来の取業を定めることに相談にのらないというのは、あまりに子供がかわいそうではないでしょうか。我が子の就取、又は義務教育も余すところ三ヶ月で社会に出るので、学校に対して山の様な注文がある苦です。遠慮なく我が子のために相談に来て頂きたい。

去る二十三日は第二学期の終業式です。第二学期の成績をまとめるので、この日最も具体的な懇談の出来ると考えまして父兄会を開催致します。冬休みの生活についてよく懇談致したいと思えます。

○保健主事講習会

まる二日より一泊二日の講習会が筑波で開催され岡田校長、市村、廣業両教頭が出席して参りました。父兄口我が子の学習成績には非常な関心を持つて居るが我が子の健康に口案外無関心で、病気になるて始めて大騒ぎといったところが健康に對する関心の極に思はれます。この講習は教師が父兄と協力して、学童の健康教育に当る様にとの講習でありました。この講習で父兄にお願したいことは、子供の身体検査の結果をよく活用して下さること、子供の食事に対する考え方の二つあります。我が子の身体發育の状態は全園平均と比較して、又本校生徒の平均と比較していつた疑問を起して頂きたい。又疾病異常の点口ないか、こゝうした点を見て頂いて、学校參觀の際に受持と懇談して指導を受けたり、希望を述べたりして欲しいと思ひます。食事では満腹させればよい。好きなものをたべれば良いという考えを持つていたとしたら二十世紀の喜劇の材料であるといわれています。この点給食問題で詳しい報告があると思ひますので、こゝでは省略いたして置きます。

青年会
便り

産業部主催で、まる十一月廿三日勤労感謝の日を卜し、公民館において本年度冬作蔬菜の品評会を開催いたします。

○蔬菜品評会開催

本年は冷害のため出品点数は少なかつたが、出品物口予想外優秀で好成績でした。入賞者は次の通りです。

- 白菜 一等(京三) 古来 久松 徳次
- 二等(〃) 松塚 久保田尚勇
- 三等(〃) 吉瀬 五頭 詠一
- 〃(千歳) 石米 藤沢 隆雄
- 大根 二等 松塚 久保田尚勇
- 干菜 一等 石米 寺田 節子
- 二等 金田 沼尻 忠雄
- 三等 吉瀬 根本 久
- 葱 二等 石米 豊島 寛
- 胡蘿蔔 三等 金田 岩瀬 正史
- 甘藍 入賞 中根 平島 三郎
- 備考 大根 葱口共に一等なく 胡蘿蔔(にんじん)には一、二等共にありませんでした。



昭和廿八年
七・五・三合同祝典

十二月廿日(旧十一月十五日)本年の七五三合同祝典が公民館で行われた。憂いられた前日米の天候の幸い好晴に恵まれ 祝児だらけ何れも新調 お揃いの学童服でお父さんやお母さん おじいさんやおばあさん方に連れられ 三三五と公民館目ざして諾めかけて来る。どの子供も、どの子供も、可愛い可愛いニコニコ顔 附添う人々もまた子供等にまけない程のニコニコ顔 街頭に立つてこれを眺めて居る人々の顔も笑みこぼれている。「お芽出度うございませす、まあ可愛い切らやんで、お孫さんで下か」「あなた可愛いいどころでございませんよ、ゆりゆうしかたのない腕白で」と挨拶かわす人達の晴れ晴れしいニコニコ顔なれば「おいたをしてはいけません」と叱るお母さんの顔もやつぱりニコニコ まるで朗らかな お芽出たニコニコ顔のオンパレードでした。

祝典は午前十時半近く 塚本教育長司会のゆとに大

ホールで開始された。岡田子供部長用会を宣すれば、宮本神取により修祓 降神 献餅 祝詞奏上があつて村長始め各種団体代表等玉串を奉奠し 公民館長の式辞あつて神餅を撤し、祝子だらけ口村より恒例によつて千歳銘を贈り 昇神の儀を行ひ、ついで米濱の祝辞があつて祝典の幕を閉じ余興に移つた。余興口小学校低学年のレクリエーションで、美事なその出来口々にマンマの喝采を拍し、続いて映画を観賞し 後役場前で記念撮影を行つて予定の行事を終り、公民館分館長や婦人会支部長等に引卒され、各部落領事の社前に、祝子達の前途を多かれと、その幸福をお祈りして、いつまでも、いつまでも楽しい思い出の種子となる今日の祝典を胸に抱きしめ、ニコニコしながらおのおの祝子だらけ口しづかに家路を辿つたのでした。

お芽出たこの祝典に参加した祝子の氏名口次の通りであります

- 「上境」程山治男 酒井守夫 塚田勇一 酒井あい子
- 酒井ゆき子 酒井しげ子 酒井美代子 「中根」本
- 橋一美 本橋俊明 平島稔 平島幹久 室西浩良 平
- 島義雄 丹羽晃一 室町愛子 本橋繁子 平島道代

教委辞令

中学校の学級増加に伴い、先生の増員が認められ十二月一日村教委から左の通り発令された。
 衆中学校助教諭を命ずる。中島 香男
 (附言)先生は土浦市木田余の人、日本大学短期正科工学部応用化学科の出身です。

室町美枝子 本橋きみ子 坂佐知子 平島志け子
 斉藤まさ子 岩瀬口ひ子 横倉久(「土器屋一区」)
 飯島弘己 飯島静子 飯島仁美 飯島きぬ子 飯島悦子
 金村美江子 中村正男 「土器屋二区」 廣瀬美智子
 中根幸子 須藤紀子 岡田憲枝 飯島正江 増山繁子
 櫻井良勝 皆川治文 飯島登 高梨佳治 「松塚」
 久保田佳男 久保田和則 久保田美代子 飯塚昌子
 根本ゆき子 「大上坪」 藤井一史 塚本光江 塚本清江
 大山澄子 「大下坪」 酒井清美 酒井洋治 酒井朝江
 酒井美子 「横町」 岩瀬秀男 沼尻とし 沼尻文江
 「金田」 岩瀬好史 田村忠雄 沼尻正之 沼尻保
 宮本時江 沼尻美穂子 塚本千枝子 庄岡愛子
 沼尻幸子 「古米」 寺田実 諸井英史 豊島切 豊島治郎
 豊島幸男 豊島宏己 藤 治子 「吉瀬」
 中島弘行 中島文子 計七五名

土浦市外十五ヶ町村 土地改良区総代選挙執行さる

宗村選挙管理委員会

十二月十三日公民館に於て選挙長酒井嘉幸、立会人寺田兵吾、庄岡弥一郎、塚本清立会の上にて、土浦市外十五ヶ町村土地改良区総代の総選挙を執行した。その結果口左の通りである。

- 一、有権者総数 二五六名
 - 二、投票総数 一五五票 投票率 六〇・五%
 - 三、開票の結果 有効投票一五一票 無効投票 四票
- 得票者氏名
- | | | | |
|----|-----|----------|-------|
| 当選 | 四二票 | 古米四四一番地 | 豊島 正雄 |
| 同 | 三四票 | 金田六六番地 | 沼尻謙次郎 |
| 同 | 二八票 | 大一〇六八番地 | 大山重彦門 |
| 同 | 二四票 | 吉瀬一六四一番地 | 根本 豊次 |
| 同 | 一一票 | 横町一〇番地 | 沼尻高之助 |
| 同 | 一〇票 | 土器屋二五八番地 | 飯島虎之助 |
| 次点 | 一票 | 古米四六〇番地 | 寺田 共吉 |
| 同 | 一票 | 大 八七九番地 | 酒井 宗一 |



西郷村及瓜連町 完全給食を視察して

衆中教頭 市村 芳男

去る十二月十五日 岡田村議会議長を始め三十三名の各種団体の代表者が、東茨城郡西郷村第二小学校及那珂郡瓜連町小学校の学童に対する完全給食の状況を視察して参りました。これ等の学校で給食を始めたのは食生活の改善と食事を通した教育との二つが大きな目標の様です。

西郷村は、猪で有名な西茨城郡七会村の隣村で山の深い山村であります。戸数七五五内農業六四一戸 耕地二一五町 畑三一九町 一戸平均八反歩 山林民有一二〇〇町 山林の収入があるようですが、山は大木はなく 衆村と比べて自然の條件に恵れず収入は少ない村のやうです。第二小学校長が食生活改善を提案し、一週三回のパン給食をPTAに相談した際は大部会が反対であつたとの由 反対の理由は、パンでは空腹が早く 帰宅して中食で飯をたべるから、パン代だけ余計な現金支出になるとのことが、最も多かつたそ

うです。然しPTAの実行委員が賛成してくれ、村費から月額一万円の補助があり、婦人会より設備の寄附があつて、今年一月から三月までを試験的に実施することになつたのだそうです。

今年の四月にPTA総会を開いて父兄の批評を聞いたところ一人の反対もなく四月以降も続けて欲しいとの希望があり現在に至つて居ることでした。現在までの効果としては、出席がよくなつた。備食が少なくなつた。備食で一月にミルクが足りない子が六十三人いたが、九月には五人になつた。にんじん、ねぎではさらいが二百二十一人が、九月には誰かたべられなくなったそうです。現在週三回パンを給食して費用は百円徴収しているとか、以前には三十円であつたが七十円値上りしているとの由 給食費の未納者はないそうです。給食の状況を見て、食事に対しての行儀のよいこと、五六年生の当番の親切なこと、受持先生も児童も誰か同じたべもので、大変うれしそうでした。食事をかくしてたべるような子は一人もなく、みんな明かると笑顔で先生にたべている食物の栄養をやさしく聞いたり、質問したりしながら楽しい食事の姿に

見学の私達も、にくくしてしまいました。各教室

をパンと汁とミルクだけでお腹がすかないかと聞いて
廻りましたが、二、三年生にはなく、五、六年で三人程
帰宅して飯をたべると答えた子がいました。校長先
生に聞きましたら、全校で現在五名あるとのこととし
た。家庭と連絡して、帰宅して飯をたべさせないよう
にしつけているそうです。栄養の、熱量も子供の発育
に足らない量が腹に入ったのであるから、満腹感を
持たねば満足しなかつた今迄の習慣を破るためには
家庭との連絡が是非必要であるとのことである。

製パン口村の農協がして居りますが、独立会計で、
従業員の人件費一切が製パンで出るそうです。この様
に好成績である第二小学校の結果によつて、第一小学
校も一月から開始するそうです。

日本人の一番多い病気は、消化器系統ですが、パン
食、粉食を日本の食事に取り入れられたら、きつと消
化器病も少なくなり、蛋白質も多く取りますから、体
育も向上するし、米も節約され、日本の国土で日本人
の食糧が足りる様になつたら、それだけ日本の食糧輸
入は減つて、他の必要な物資が輸入を来ると思いまし

た。

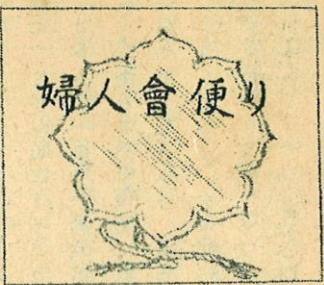
西郷村の学童の食事のにくく、顔を後にして、瓜連
町小学校の給食状況を視察致しました。瓜連町口一年
前に農村では全国の先頭を切つて完全給食を実施した
町です。一月からは一週間五回完全給食の費用を町費
で負担することになつたそうです。その費用一月三
月までの予算、中小学校で百四十五万四千二百中甸に
町議会を通過したそうです。実際は午後になつたので
視察をしませんでしたが、西郷村を指導した施設と運
営ですから、本村でも実施の際は指導を受けねばなら
ないと思ひました。

視察して考えた事は、子供に対する深い愛情と、指
導者を信頼した熱心な協力、又指導者の強烈な迫力が
こうした施設となつたのであると思ひました。

執行葬村準

十二月十六日午後二時 客月廿六日シベリ
ヤより無言の帰還をせられた吉瀬 致陸軍
伍長中島玄次郎君の準村葬が自宅、仏式によ
り日輪寺住持、菊池精秀師導師となり、村長
議長、議員各種委員、各団体代表等多数参
列壮嚴に執行せられ悲しみを新たにした。
謹で敬平の誠を捧ぐ。

便り會人婦



西郷村を訪ねて

十二月十五日村の学校給
食視察に参加し、酒井会長
沼尻副会長の両名が西郷
村瓜連町を視察して参りま
した。視察団は岡田村議会
議長を始め総員三名

午前八時二十分貸切バスで役場前を出発、土浦市から
六号國道を北進、石岡町から笠岡街道にいで笠岡町で
三の分小廻し、更に笠岡石塚線県道を一路北進、大池
田村を経て西郷村へ参りました。県道口丘陵起伏する
雑木林の中を曲折し、人家はこゝに五軒、あちらに三
軒という凡に点在して流石に山深い山村という感じが
いたします。バスは午前十一時半頃本村から六三、九
料の路程を走破して大字上青山なる西郷村役場前に到
着いたしました。議長さんと助役さんが刺を通じて来
意を申し入れると、村長さんは御不在の由で、助役兼教
育長の所帯藏先生が代つて案内して呉れました。役場
の西隣が農協の事務所、事務所裏にまだ木の香の薪

らしく新築された工場内には、六枚差しのパン焼石窯
一基の外ミキサー、ネカシ槽、ホイロ、作業台等が適
当に配置され天板、箱、稗具の他必要な器具類が完備
され、男工一、女工三計四人で盛んに製パン作業中で
一口の製造高口給食用二七七のコツパンの外一般販
売用のコツパンと餡パンで約七八百個であるとの
こと、これでは成る程、独立採算が取れるだろうと思
いました。こゝを辞して一行口再びバスでもと来た道
を少し逆く戻りして目的の第二小学校へ参りました。
学校では丁度給食時間でありましたので、大越校長
先生からも先に給食の状況を御覧になつては、と話さ
れましたから各教室を廻つて見学いたしました。この
日の献立はパンにミルク及むらくは汁で子供達口どの
子も、どの子も樂しそうに食べて居りました。私達迄
ついり込まれては、笑ますには居られませんでした。
学校給食の關係口学校方面から詳細の報道があるこ
とと思ひますので省略いたしますが、村の事業や施設
を見ると、其の村の概況を知ること大切と存じま
すので、見たま、聞いたま、の概要を申し上げましょ
う。この村は水戸市の西北一七料、笠岡町の北東一六

料 茨城鐵道石塚駅から 料の處にある山村で、総面積三二四平方料(本村の約四倍)廿七年十一月同村農協の調て口田二一七町 畑三二〇町 宅地一四八四一四坪 民有林一〇九〇町 原野八四町、國有林六六三町で、世帯数は七九一 人口四三八九 内農家六三一人口三六二九 生産物の年米五〇〇〇石 黍類二六〇〇米石、米の供出は大体二二三〇石位で麦類の農協取扱販売約六〇〇〇俵 甘藷二八万貫 馬鈴薯五万貫 煙草三三万貫 木炭二万俵 薪五万束、其の他茶 椎茸や菓工品等で、土質は耕地は大体洪積層 主として所謂関東ローム層、丁度こゝの各地と同じ地層で更に地力は劣つて居ると見ました。小さい川が二本西から東へ流れて居ります。一つは藤井川、一つは西田川といつので共に那珂川へ入るのださうです。又山林地帯は大体本郡山ノ荘や小櫻村と同じ所謂自立生層に属するものらしく、中央勝見沢隧道附近は浅川層却て口ないかとのこと、ここに村有林があつて下から石材が切り出されて居りました。所先生のお話では村有林は十八丁歩あるさうですが、実測すれば恐らく倍口あるさうとのこと、これ許りは羨やま

しいと思ひました。この村の財政は大体本村と大差なく本年の当初予算一〇〇五万円、主たる財源は村税五二八万地方財政平衡交付金三二四万で、支出面の教育費予算は教委費四三万、第一小学校費一五三万、(内一〇万口校舎一部改築費)、第二小学校費六四万、中学校費六八万、公民館費五九万、教育諸費四〇万計四二七万の様でした。いろいろと助役さんや校長先生から説明やら、教えやらを受けた一行は午後二時頃別れを告げ、更に北進をつ、け那珂郡瓜連町へと向つたのであります。

村民の声

「私が農業協同組合の理事であつたら」

法規上の関係は知らないから唯常識的に考へて見た。勿論こゝの農協のありかたとは全然関係はあつて居ない。本村の農協の行き方について口別に考へたこともないといふとひどく農協に対して冷淡のようであるが、実は現在の役職員に対して全幅的に信頼しているからだ。一般的に見ると、そのやりかたが、組合員の利

益を目標としている組合、組合の利潤を上げることに汲々として組合員其他いろいろの行きかたがあるであらうが、私口組合員本位のありかたで行きたいと思つて。つまり金利は銀行より安く、物の代金は業者より安く又運搬料金等も業者より低廉にして行きたい。そして貯金口よく掛い、よく集める。貯金の拂戻しが悪いと貯金口集らないと思へる。そこでかうした方針をとるには貯金を販売事業方面の資金にあまり沢山流用することにはまずいと思つて。固定資本と流動資金の少くとも三分の一位は出資金で賄いたい。でないかどうしては信用事業面に無理が出来勝ちと思つて。指導事業面では適当な技術者を設置して栽培技術指導や相談に預ると共に農業経営の面にも指導して行きたい。例えば農業家記の付け方、見方なども指導して見たい。それには時々専門家に依頼して講習会等を用くことがよいと思つて。その他にも講習会等を用きたいものに農業の問題、生活科学化の問題等々と中々ある。又農青連、婦人部等の活動も活発ならしめて行き度い。そうして家族主義の組合を作りたい (X Y Z 生)

農作実地指導の結果について

農 青年連盟協

まる十二月二十五日、二十六日の二日間、亘り栄村の麥作の現地につき谷中技師の指導をうけ今後二月中旬頃までの管理につき注意すべき事項について次の如き点を指示されたので御知らせいたします。

(一) 麥踏みについては本年の氣象状況から稍徒長氣味のものがあつたから特に麥踏を励行されたい。(二) 運向に一日の割合で二月初旬まで(一)一般に土入が深いため葉が細く上向に成長しているのが特に必要だ。暖かい日の午後実施せられたい。

(二) 中耕について、中耕は湿度の多い畑は特に寒前に今一度やつてもらいたい。

(三) 酸性土の麥について、葉に鮮明な黄色を呈し根が細かい根がなくタゴの足の様な麥畑へ口反当三〇〇五〇メ位の石灰を水に溶いて麥の頭から注いでやる(反当) (四) 覆土の浅い麥には深い土入か反当百メ位細かい堆肥をふりかけてやる。(五) 厚播の麥は厳冬に強い麥踏を二三回つ、けてやる。(六) 発育の遅れた麥には硫酸二〇〇三メが堆肥百メ位を麥の上からふりかける(反当)

電話室

村から家庭へ

○十一月九日、狂犬病予防注射施行、午後一時より中学校生徒の幻燈会、七五三祝に付父兄との座談会を公民館に開催

○十一月十日、狂犬病予防注射を前日に引続き施行

○十一月十三日、役場に於て中学校運営に関する協議会に開催

○十一月十四日、午後二時より公民館に於て市場側を招き恒例による農協の白菜出荷協議会開催

○十一月十五日、新農村計画並に農委小作地土質検査に関する協議会を午前十時より公民館に開催する

○十一月十六日、伊藤土浦販業安定所長米村、中学校工事禁止を解除した

○十一月十九日、本郡西部中学校及青年会の駅伝競争を実施した、公民館に於て本年産米供出割当基本方針決定の農委並に生産組合長会議開催

○十一月廿一日、午前九時より公民館に於て供米割当会議開催、午後一時より役場に於て教委定例会議開催

今所に於て午後七時より村議会議員協議会開催

○十一月廿三日、午前九時より公民館ホールに於て青年会歳業品評会開催

○十一月廿四日、本郡西部地区教委連絡協議会を公民館に開催

○十一月廿五日、水戸桜山神社大祭に村村長並に寺田遺族会々長外参列する

○十一月廿六日、午前二時五十分頃房州沖を震源地とする大規模の地震あり、当地は中震、被害なし

午前十一時三十分大宇吉瀬故陸軍伍長中島玄次郎君の喪禮、無言の帰村をなす、議長、議員各種委員及団体代表者等大村界まで出迎う。

○十一月廿八日、午前九時より公民館に於て西部民生委員会開催、午後一時より会所に於て青年学級に関する講師打合せ、七時半より供米割当の農業委員会並に生産組合長会議開催

○十一月廿九日、午後一時より公民館にて教委協議会を開催す

○十二月三日、正午より役場に於て滞納整理問題に付庁内会議開催、徹底整理を申し合す

税納完強調週動

昭和 28 年 11 月 11 日より
同 29 年 2 月 10 日まで

税金は期日までに必ず
完納いたしましょう。

滞納は
→ 村政を破壊する
→ 道も橋もおおせなくする
→ 村民の生活を不幸にする

栄村役場

特別原稿募集

『私が〇〇であつたら』という課題で、毎月村民から広く原稿を募集いたして居ります。左記の規定によつて御遠慮なく御投稿下さい。

廿九年一月号課題

『私がPTAの役員であつたら』

内容 建設的意見であること、長さ八百字以内

締切 一月十日まで、匿名で差支ない。

届先 公民館弘報委員会宛郵送のこと

発表 原稿口弘報委員会で取捨選択の上、優秀と認むるもの一篇又は二篇を村民の声として弘報誌上に掲載します。

『さかこ』 第四巻第三十九号

昭和廿五年十一月三日 創刊

昭和廿八年十二月廿五日 印刷発行

編集人 栄村公民館弘報委員会

印刷人 土浦市中西町九一九 騰字堂

かすみ 騰字堂

電話土浦四八九番

茨城県新治郡栄村大字横町二〇七

発行人 栄村公民館

電話栄三二番